

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向  
令和2年度6月

○ 概要

(1) 令和2年6月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,073億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+0.1%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,674円（伸び率+8.9%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,520億円（伸び率▲3.5%）薬剤料が4,541億円（伸び率+1.4%）、薬剤料のうち、後発医薬品が849億円（伸び率▲3.8%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,817円（伸び率+9.9%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.69種類（伸び率▲1.9%）、28.1日（伸び率+15.3%）、77円（伸び率▲2.8%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料3,652億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+36億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは21循環器官用薬の643億円（伸び幅▲27億円）で、伸び幅が最も高かったのは42腫瘍用薬の+44億円（総額369億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,652億円 (+36億円)	21 循環器官用薬 (643億円)	11 中枢神経系用薬 (639億円)	39 その他の代謝性 医薬品(620億円)
0歳以上 5歳未満	15.4億円 (▲10.9億円)	44 アレルギー用薬 (6.5億円)	61 抗生物質製剤 (2.0億円)	22 呼吸器官用薬 (1.6億円)
5歳以上 15歳未満	64.8億円 (▲9.8億円)	44 アレルギー用薬 (23.9億円)	11 中枢神経系用薬 (19.8億円)	39 その他の代謝性 医薬品(4.3億円)
15歳以上 65歳未満	1,271億円 (+2億円)	11 中枢神経系用薬 (279億円)	39 その他の代謝性 医薬品(234億円)	21 循環器官用薬 (194億円)
65歳以上 75歳未満	879億円 (+20億円)	39 その他の代謝性 医薬品(180億円)	21 循環器官用薬 (179億円)	42 腫瘍用薬 (119億円)
75歳以上	1,421億円 (+34億円)	21 循環器官用薬 (266億円)	11 中枢神経系用薬 (235億円)	39 その他の代謝性 医薬品(200億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,674円（伸び率+8.9%）で、最も高かったのは高知県（11,481円（伸び率+10.3%））、最も低かったのは佐賀県（7,958円（伸び率+4.2%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは東京都（伸び率+12.6%）、最も低かったのは山形県（伸び率+3.6%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注)</sup>	80.8 %	+2.7 %
薬剤料ベース	18.7 %	▲1.0 %
後発品調剤率	74.8 %	+0.8 %
（参考）数量ベース（旧指標）	55.8 %	+1.3 %

注)【後発医薬品の数量】/【（後発医薬品のある先発医薬品の数量）+【後発医薬品の数量】】で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲3.8 %	+8.6 % (100歳以上)	▲34.4 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.7 %	26.0 % (100歳以上)	11.4 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	80.8 %	85.8 % (100歳以上)	73.2 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	730億円 (▲46億円)	21 循環器官用薬 (231億円)	23 消化器官用薬 (102億円)	11 中枢神経系用薬 (99億円)
0歳以上 5歳未満	3.9億円 (▲3.7億円)	44 アレルギー用薬 (2.0億円)	22 呼吸器官用薬 (1.0億円)	61 抗生物質製剤 (0.4億円)
5歳以上 15歳未満	11.6億円 (▲4.1億円)	44 アレルギー用薬 (7.1億円)	11 中枢神経系用薬 (1.5億円)	22 呼吸器官用薬 (1.0億円)
15歳以上 65歳未満	246億円 (▲22億円)	21 循環器官用薬 (65億円)	11 中枢神経系用薬 (47億円)	23 消化器官用薬 (29億円)
65歳以上 75歳未満	179億円 (▲9億円)	21 循環器官用薬 (71億円)	23 消化器官用薬 (24億円)	39 その他の代謝性 医薬品(19億円)
75歳以上	289億円 (▲8億円)	21 循環器官用薬 (95億円)	23 消化器官用薬 (49億円)	11 中枢神経系用薬 (35億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,353円	1,741円(北海道)	1,095円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.7 %	+9.8 % (東京都)	▲2.0 % (秋田県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	80.8 %	88.9 % (沖縄県)	75.6 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.7 %	22.0 % (鹿児島県)	16.4 % (京都府)
後発医薬品調剤率	74.8 %	81.1 % (沖縄県)	69.7 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	55.8 %	63.8 % (沖縄県)	51.8 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和2年6月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。